

# 「なごやか農楽会」だより 68号

2021.11月(冬)号



なごやか農楽会の概要説明

～農業ボランティア育成講座にて(21.11.13)～

- ◇ なごやか農楽会からのお知らせ  
～ ホームページPJメンバー引き続き募集中～  
～ 会員の定着化施策と受講生向け実技研修の実施について～
- ◇ 援農作業予定 (12～2月)
- ◇ 援農作業実績 (8～10月)
- ◇ 農家さん紹介/あいちの伝統野菜など

## なごやか農楽会からのお知らせ

### ホームページプロジェクトメンバー引き続き募集中

魅力的なホームページとして運営していくためのPJを立ち上げています。まだメンバーの人数が少数なのでPJに参加して頂くメンバーを引き続き募集します。

①会員に向けた情報を発信し、共有するためのHP ②市民に向け、農楽会の存在・活動を発信するためのHPを作成するためプロジェクトメンバーがHPを随時更新します。

事務局(広報担当 水野 mizuni888-n@yahoo.co.jp)にお気軽にお問合せ下さい。

なごやか農楽会だよりは、名古屋市農業センターのご協力により発行しております。

# なごやか農楽会からのお知らせ

## ～ 会員の定着化施策と受講生向け実技研修の実施について ～

手元に平成17年度と平成30年度のボランティア育成講座募集要項があります。平成30年度の募集対象は①名古屋市内在住・在勤・在学、②健康・体力に自信があり、概ね5年以上ボランティア活動に積極的に参加できる見込みの方③なごやか農楽会の運営に協力いただける方など4条件です。一方、平成17年度の募集対象は①は同じで②は、終了後は農家でのお手伝いなどなごやか農楽会の活動に参加できる方というものでシンプルです。概ね5年以上参加できる見込みが加わったのが何時頃かはわかりませんが、5年間活動を続ける会員が少ない実態があったのでしょうか。仕事が忙しい、家族の介護、孫の世話が大変で自分の時間が作れないから・・・と3～5年程で辞められる会員が多くいらっしゃいます。色々な理由で忙しく活動に参加できないことは事実だと思います。

しかし、その理由が本当に会を辞めなければならない理由なののでしょうか。本当の理由は他にあるのでは・・・と段々思うようになりました。

育成講座が修了したばかりの皆さんの多くは「育成講座で座学その他、農作業も少し学んだ。農作業についてはまだまだ知らないこと、学び足りないことが一杯ある。このまま入会して先輩会員と同じ援農作業を一緒に行うようだが、自分に出来るのか不安、足手纏いにならないかと心配」とおっしゃいます。私はこの不安や心配な気持ちが3～5年程で辞めることに影響しているのではと思います。

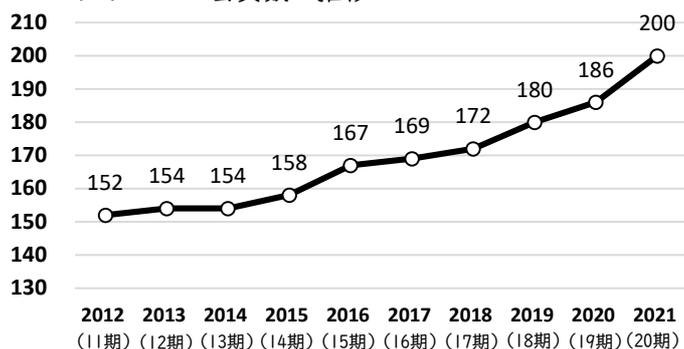
「最初の1年目が大事。最初の年に来てくれた人は次の年もずーと来てくれる。」長くお世話になっている農家さんの言葉です。「最初の1年目が大事」「最初の年に参加できないと、二年目、三年目の参加はもっと難しい」この認識が重要だと思います。事務局長を担当させて頂き色々なことに取り組んでいますが、各支部長をお願いしていることのひとつにこの認識の共有があり、新しく入会した人の背中を押す(畑に行く)取組みを行って欲しいということです。

幸いにして、この何年間辞める人が減り結果として会員数が200名に届きました。(グラフ1参照)辞める人が減った要因は、①入会后3～5年で辞める人が従来に比べて減ったか、②入会后5年以上活動した方でその後も変わらず活動を続ける方が以前より増えているかのいずれかだと思います。表1・2から②が要因のようです。3～5年で辞める人が従来に比べ減っていないので、各支部での入会した人の背中を押す取組みの強化が必要だと思います。

次に事務局が行う定着化の施策を紹介します。

育成講座が修了した時多くの皆さんが前述の不安等の話と共に「講座の中で、援農作業を一度経験したかった、経験させて欲しかった」と話されます。

グラフ1 会員数の推移



経験したいという話は多くの方が持つ不安や心配とどこかで繋がっているように感じます。そこで事務局は今年度「農作業のお手伝い」体験(実技)を企画しました。狙いは「農作業のお手伝い」に馴染んで頂き、不安や心配の解消の一助になればとの思いです。

体験(実技)の概要等は以下のとおりです。

1. 実施場所  
天空のアグリパーク守山区上志段味東谷2110-20
2. 参加者  
21期育成講座受講生のうち参加希望者(20名参加)
3. 実施時期(日時)等  
10月31日(日)、11月5日(金)、12日(金)の3回  
いずれも午後1時～3時迄
4. 実技作業 堆肥運び
5. 参加者の感想

重くて大変でした。ブルーベリーの剪定の予定が堆肥運びに替わり残念との声もありましたが、総じて多くの参加者から体験できて良かったとの声を頂くことが出来ました。

会員定着化の重要な言葉は「最初の1年目が大事」です。この言葉を口にして4年が経ちました。実技体験を企画して3年目。ようやく実現しました。幸い、良かったとの声を頂きましたので、実技体験を継続していきます。一部の支部長が新入会員の援農参加模様を評議会で報告する等の変化も出ております。各支部の総会等で背中を押す取組みについての意見交換などをお願いし、定着化のための施策を進めて頂きたいと思っています。

## 評議会報告

報告・審議・検討事項の概要

8月度会議(休み)

9月度会議(9月12日開催)

(1) 20周年記念行事の見直しについて

来年度の20周年記念行事は、講演会・トークショーを中止し、コロナの感染状況に拘わらず実行できる20周年史の編集のみとする見直し案を検討し、承認された。

(2) 20周年記念行事準備・実行委員会に10名程の会員方に参加頂けることとなった。また、3名の方にHP運営PJに参加頂けることとなった。

10月度会議(10月10日開催)

(1) 20周年史編集等スケジュールについて

令和2年10月準備・実行委員会キックオフを行い、その後20周年史編集作業を開始し令和4年4月総会で会員等に20周年史を配布するスケジュールを進める。

表1. 3年後の退会率(7～10期)

	入会時	退会者	退会率
7期	15	9	60%
8期	18	8	44%
9期	18	15	83%
10期	11	9	82%
合計	62	41	66%

表2. 3年後の退会率(14～17期)

	入会時	退会者	退会率
14期	25	11	44%
15期	28	17	61%
16期	30	22	73%
17期	24	13	54%
合計	82	52	63%

(注) てんぱく支部における実績 農楽会全支部における実績

\*期の新旧に関わらず、3人に2人が3年後に退会。

# 援農作業予定 (12～2月)

## てんぱく支部

支部会員へのお願い

援農作業風景の写真を募集しています。  
農家さんにご迷惑をおかけしないよう事前に  
了解を頂いた上、休憩時間の前後の時間に  
撮って下さい。支部長と相談の上。

12月  
ミカンの収穫と選別作業  
小松菜の整理

1月  
ニンジンの収穫

2月  
ニンジンの収穫

## みどり支部

支部会員へのお願い

援農作業風景の写真を募集しています。  
農家さんにご迷惑をおかけしないよう事前に  
了解を頂いた上、休憩時間の前後の時間に  
撮って下さい。支部長と相談の上。

12月  
葡萄、柿、ミカンの整枝剪定

1月  
ブドウ粗皮削り・敷草引き  
ミカン・ポンカン収穫

2月  
草取り等

# 援農作業予定 (12～2月)

## もりやま支部



畑整理

12月  
野菜収穫、畑整理、草とり  
枝切り、つる切り 梅剪定

1月  
野菜収穫、畑整理、草とり  
ぶどう皮むき 梅・柿剪定

2月  
野菜収穫、畑整理、草とり  
ぶどう幹皮むき ブルーベリー剪定

## 港・中川支部



箱作り

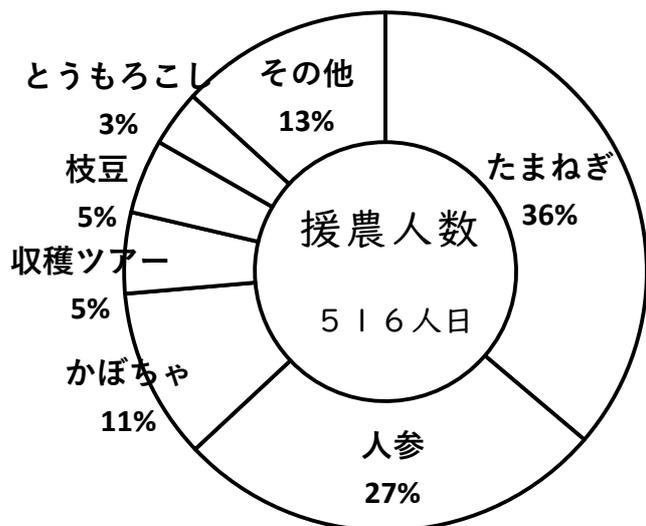
12月  
里芋の収穫・小芋外し・袋つめ、  
レタスの袋つめ里芋、春菊の出荷準備  
ミツバ出荷準備箱作り、春菊畑の草取り

1月  
箱作り、トマトクリップの外し  
里芋の収穫、ブロッコリーの収穫と袋つめ  
ミツバ出荷準備、春菊畑の草取り

2月  
箱作り、ジャガイモの植え付け  
とうもろこし・枝豆・ナスの播種  
里芋の土落とし、ミツバ出荷準備

# 援農作業実績 (8～10月)

## てんぱく支部



1人日=1人1日3時間の援農作業

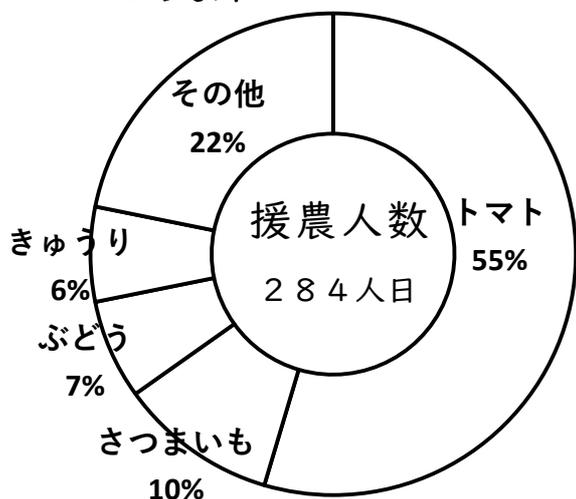
三か月間(8月～10月)の援農実績は、89人日。  
累計(2月～10月)は516人日。  
三か月間の援農先は、3農家。

援農作業は、人参蒔き・間引き・鶏糞まき・草取り・泥だしが主な作業。

この他、キャベツ・白菜植え、さつまいもつる切り・収穫手伝い、ネギ皮むきなど

昨年同期(8月～10月)の援農実績 58人日  
昨年の累計実績は、443人日

## みどり支部



1人日=1人1日2時間の援農作業

三か月間(8月～10月)の援農実績は、36人日。  
累計(2～10月)は284人日。  
三か月間の援農先農家は、2農家。

援農作業は、トマト、キュウリ種まき・定植・鉢上げが主な作業。

この他、防鳥糸支柱立て・糸引き、なす片付け、冬野菜種まきなど

昨年同期(8月～10月)の援農実績 49人日  
昨年の累計実績は292人日。

# 援農作業実績 (8～10月)

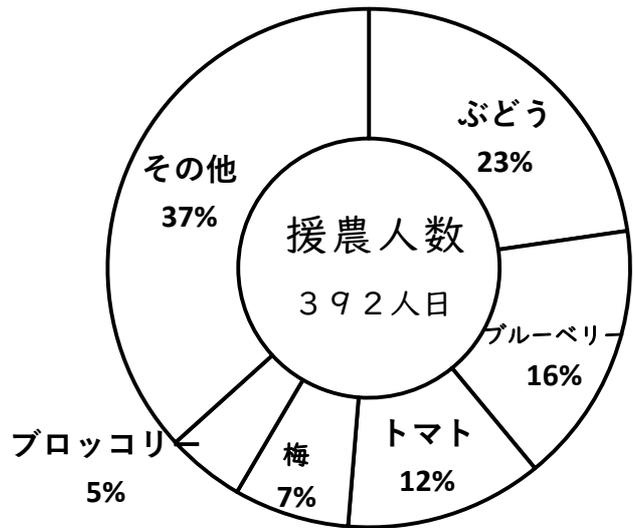
## もりやま支部

三か月間（8月～10月）の援農実績は、129人日  
 累計（2～10月）は392人日。  
 三か月間の援農先農家は、3農家。

援農作業は、ワイン用ぶどう収穫、ぶどう発送作業、枝切り  
 出荷作業、誘引テープ取り、ぶどう枝切り、植え込み剪定  
 ブルーベリー堆肥施肥、収穫、鉢の植替え、梅剪定  
 ブロッコリー定植、苗ポット作り

その他、ネギ・わけぎ植え付け、いんげん収穫、ぎんなん拾  
 い、トマト畑片付け、わけぎ・ケール定植、ナス・キュウリ  
 畑片付け、ナス袋詰め、アーチ屋根撤去等

昨年同期（8月～10月）の援農実績 92人日  
 昨年の累計実績は275人日



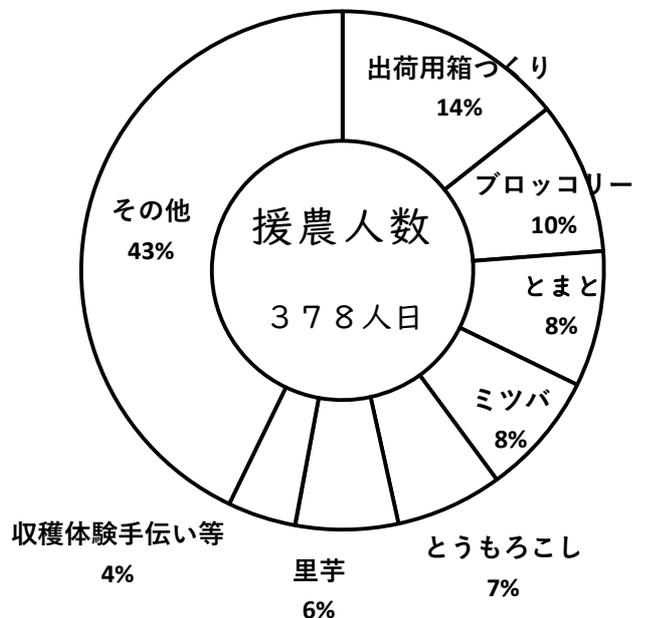
1人日=1人1日2時間の援農作業

## 港・中川支部

三か月間（8月～10月）の援農実績は、108人日。  
 累計（2～10月）は378人日。  
 三か月間の援農先農家は、5農家。

援農作業は、ブロッコリーの播種、里芋の仕分け  
 セルトレイへのブロッコリー・カリフラワー・  
 キャベツの播種  
 サツマイモ蔓切り・掘り・マルチ外し  
 市民収穫祭の準備、ミツバの下葉整理

昨年同期（8月～10月）の援農実績 156人日  
 昨年の累計実績は492人日



1人日=1人1日2又は3時間の援農作業

# 農家さん紹介

今回は、坂野克也さんを訪問しました。

坂野さんは平成25年に新たに農業を始めた農家さん。昭和49年生まれの47歳、名古屋市港区藤高で名古屋みなと農園を営んでいます。



坂野克也さんにお話をうかがいました。

港・中川支部の援農先の一つ、坂野克也さんの農地はイオンモール名古屋茶屋の南側方向にあります。お父さんさんが亡くなったのをきっかけに、農地を引きつぎ脱サラで農業の道へ。春日井の苗屋さんなどで研修2年。農機具は中古でそろえてきた。現在借地2haの畑（他に水田0.5haを所有しているが耕作は農協に依頼）を一人で耕作。なごやか農楽会のボランティアを月6-8人程度（定植、袋詰め、イベントの手伝い等）お願いしている。作物は夏は（6-7月）トウモロコシを早朝2時より収穫・出荷作業を行い、朝取りトウモロコシとして、スーパーやJAへ出荷。鮮度が良いのでおいしいと評判。冬は、ブロッコリー、カリフラワー等をスーパー等へ出荷。一部は奥様が週2日直売も行っている。肥料はまだ土の中に前からの分が残っているため、尿素と硫黄のみ。水は通常天水だけで賄っている。収穫体験も行っていて、インタビューに伺った日も名古屋市民17組（60人）が大根等8種類の野菜の収穫体験に見えたとのこと。今後は収穫体験だけでなく貸農園も行っていきたい。楽しみ（趣味）は農業。農業の売上で生活は十分できるとのこと。悩みは技術不足で、勉強している。都市農業もやりかたによっては、収入も十分あり、将来性のある分野だと思われました。



トウモロコシ



トウモロコシ畑



カリフラワー

## はじめよう！ 家庭菜園(\*1)

今月号はトンネル掛けです。トンネル掛けとは、畝の上にトンネル型のフレームをかけ、寒冷紗やビニールフィルムを掛けること。害虫が入るのを防ぐほか、鳥害対策や保温効果などが期待できます。



### 1. トンネル掛けのメリットって何だろう？

寒害を防止（保温効果）して品質の良いものができる  
生育を早められる  
気温が低い時期に種まきや植付けができる  
露地ものがとれない時期に収穫できる  
害虫の発生が少ない冬は無農薬栽培が可能

### 3. トンネル作りの注意点って

支柱は「ハ」の字にならないよう地面に対して垂直に  
指し込みましょう  
フィルムの端はまとめて固定しましょう  
高温を保つ必要のある野菜（スイカ等）を育てる際には  
トンネル内に冷気が入らないようにしましょう  
種まき・植付け後はトンネルの裾をしっかりと閉めて  
保温に努めましょう。

### 2. ビニールトンネルの張り方

- ・トンネルを張る畝や位置を決め、長さ200cm程度のトンネル支柱をアーチ型に挿していきます。（間隔約50cm）
- ・畝の両端にビニールを結び付ける杭を斜めに打ちます。
- ・杭の一番端の外側を少し傾けてもう1本支柱を挿しておきましょう
- ・ヒモを一方の杭に結び各支柱にそのヒモを掛けながら渡しもう一方の杭に結び付けて支柱を固定します。
- ・ビニールの一方の端を杭に結び付けもう一方の端を持ってピンと張り、反対側の杭に結びつけます。
- ・支柱と支柱の間をビニールがバタつかないよう適当な間隔でヒモや別の支柱などで押さええます。
- ・ビニールを密閉するときには裾を土で押さえましょう。

(\*1) はじめよう家庭菜園は、なごや農業協同組合様が発行されるCITYなごやに掲載されています。  
なごや農業協同組合様のご承諾を得て、掲載しています。

# あいちの伝統野菜

今月号は白菜です。

現在ハクサイと呼んでいるのは結球ハクサイのことで、その起源は中国です。原始型に近いツケナから不結球のハクサイが生まれました。

それが改良されて結球ハクサイが出来ました。（清の時代に結球ハクサイが出来たという説が有力です）

不結球のハクサイは江戸後期に日本（長崎）に渡来し、慶応2年（1866）には結球ハクサイが渡来したといわれています。

明治8年に中国から3株の山東白菜が入り、これから後の愛知白菜が成立しました。（後述）

明治28年日清戦争の際中国から仙台師範の参謀が結球ハクサイの種子を持ち帰り、宮城農学校の沼倉氏によって試作されました。

沼倉氏は仙台養種園等で栽培と採種に専念し松島湾内の馬放島での隔離採種で他のツケナ類と交雑しない種子の採種に成功しました。

松島白菜が誕生し、宮城県におけるハクサイ栽培が定着しました。

宮城県の白菜は大正13年に横浜に出荷され、仙台白菜としてその名が全国に広まりました。



## あいちの伝統野菜

次号は人参を紹介します

### 野崎白菜2号



頭部がよく包被した円筒型。  
結球しやすく肉質が柔らかく、  
甘みがある。

写真：あいち在来種保存会提供

白菜の育種は従前の品種の中から勝れたものを選び出す方法でしたが、昭和になり品種間の交配で新しい品種を育成する方法に変わりました。

連作の関係などから耐病性品種の育成が待望され、昭和26年伊藤庄次郎氏らによる自家不和合性利用の一代雑種採種法がキャベツで世に出、これと併行して進められていたハクサイでも相次いで発表されました。

この新しい優秀な品種の育成法の開発でハクサイは一代雑種の時代を迎えました。

軟腐病やウイルス病に強いキャベツの性質をハクサイに取り入れることに成功し昭和31年に平塚1号が発表されました。この品種は野菜として普及するほどの勝れたものではありませんが、強い耐病性を持つことから一代雑種の片親には必ずといってよいほど用いられ、種苗会社や試験場で多くの耐病性品種が育成されました。

白菜栽培は採種法と品種改良の歴史といえるほど育種の成果は大きく先覚者の白菜栽培への貢献は大きいといえます。

愛知県における白菜栽培は明治8年清国より東京博覧会に出品した山東白菜を愛知県植物栽培所が払い受けて栽培を行ったことに始まります。

この山東白菜が愛知白菜の前身です。

芝罘（チーフー）白菜が晩生であるのに対し山東白菜は早生、良質です。

その後別名名古屋白菜と称せられたが荒子村の野崎徳四郎氏らによって改良され、大正6年愛知白菜と改名されました。

愛知白菜は肉質柔軟で品質は極めて良好であった反面病害に弱くこの点を改良するため、野崎採種場において芝罘（チーフー）白菜との雑種から淘汰して野崎白菜1号を、さらに愛知白菜の淘汰によって野崎白菜2号を育成しました。

### 参考文献

日本のふるさと野菜（一般社団法人日本種苗協会発行）

日本の野菜文化史事典（青葉高著 八坂書房2013）

愛知県園芸発達史（愛知県園芸発達史編さん会）

あいち在来種保存会・野菜ソムリエの「あいちの伝統野菜」（ブログ）

愛知県HP愛・地産・アラカルト 農業水産局農政部園芸農産課

## 編集後記

コロナウイルス感染症も収まってきて、ウイズコロナの時代となってきそうですがまだ安心はできません。コロナウイルス感染症対策をしつつ援農をお願いします。これから寒い日が続きますので、風邪、インフルエンザ、コロナにかからぬよう対策してお過ごしください。今期は農楽会発足20年の記念に向けて準備が目白押しです、皆様の協力をお願いします。

発行 なごやか農楽会事務局（水野・川合） 令和3年11月20日発行

なごやか農楽会は、名古屋市内の農家のお手伝いを主な活動とする農業ボランティアグループ。

会員は、全て農業ボランティア育成講座修了生です。